

2019. 7月 vol. 23

Y's NEWS

—ワイズニュース—



夏期休業のお知らせ

8/10(土)～8/18(日)まで夏期休業とさせていただきます。
ご注文については、8/9(土)午前受付分まで当日発送。
それ以降は8/9(日)の発送となりますので、ご注意ください。
ご不便をおかけ致しますが、よろしくお願い致します。



教えて！髪質改善のあんなことこんなこと

今回は、髪を傷める原因とその対処法 2回目、②ドライヤーやヘアアイロンの熱によるダメージについてお話しします。

髪の毛はタンパク質が主成分のため、熱への耐性はあまりありません。

髪が乾いている状態で約130℃から、濡れている状態では約60℃からタンパク変性が起ります。

タンパク変性が起った髪の毛は、髪内部のタンパク質が固まって縮み、あちこちに隙間ができてしまいます(ダメージホール)。お肉を焼くと縮むのを想像していただくとわかりやすいかもしれません。

髪が濡れてキューティクルが開くたびに、その隙間から成分や水分が流出しやすくなります。

そして、硬くゴワついた手触りになり、パーマやカラーも反応しづらくなります。

そうならないためにも、ドライヤーやヘアアイロンを使うときは次のことを気をつけましょう。

●ドライヤー

一般的なドライヤーの場合、髪の毛から10cm程度の位置で約90℃、15cm以上離しても60℃以上のものがほとんどです。

濡れた髪の毛は60℃からタンパク変性が始まりますが、15cm以上離してドライヤーを振りながら1か所に熱が集まらないように乾かせば、すぐに60℃には達しません。

乾かし過ぎに注意して、90%くらい乾いたところで冷風に切り替えます。そうすると、キューティクルが締まり、ツヤが出てまとまりやすくなります。

くるくるドライヤーは熱が集中しやすいので、あまりおすすめはできませんが、使用する場合は温度が上がりすぎないように、温風と冷風を交互に使うように心がけましょう。

●ヘアアイロン

ヘアアイロンは髪の毛に直接熱を伝えるため、ダメージしやすいので特に注意が必要です。

ダメージの主な原因に①熱による炭化 ②水蒸気爆発による破裂 ③プレスによる損傷があげられます。

①熱による炭化

(焦げること)

アイロンの温度が160℃からタンパク変性が起き、さらに180℃になると炭化現象が起きてしまいます。

理髪機の温度は130℃から高くても140℃くらいです。そして、2秒以上同じところにあてないようにしましょう。

②水蒸気爆発による破裂

ヘアアイロンを濡れた髪に使うと、パチパチという音が出る場合があります。

これは、髪内部の水分が一気に蒸発して、水蒸気爆発という現象が起きています。

これによって、髪の毛の細胞が破壊されてしまいます。

水蒸気爆発しない専用のアイロンを使うか、きちんと乾かしてから使用しましょう。

③プレスによる損傷

ストレートアイロンで強く挟みすぎている場合に起こるダメージです。

きちんと軟化していなかったり、クセが強い場合に多く、髪の毛をストレートにしようと引っ張ったり圧力を加えることで、髪内部の構造が損傷してしまいます。

縮毛矯正などは、きちんと軟化しているれば軽くスルーさせるだけで伸びますので、薬剤の選定や放置時間などを見直すのがいいと思います。

お客様が自分でクセを伸ばすために使用する場合は最も危いのですが、アイロンの使用状況をヘアリングして、正しい使い方を伝えることが大切になります。

ドライヤーもヘアアイロンも日常的に使用するものなので、使い方や温度を意識的に変えるだけでダメージはかなり抑えられます。是非参考にしてみてくださいね。

さて、次回は④生活習慣や環境によるダメージについてお話しします。お楽しみに！



発行：株式会社ワイズ

〒242-0007 神奈川県大和市中央林間3-7-13-3F

TEL. 046-240-9695 FAX. 046-240-9697

月～金 9:00～17:00

土・日・祝 休み

AM受付分は当日発送致します。